

中学校体育におけるダンスの授業が生徒の仲間づくりに及ぼす影響

辻元 惇 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 大西 祐司

キーワード：コミュニケーション，仲間づくり，ダンス

1. 緒言

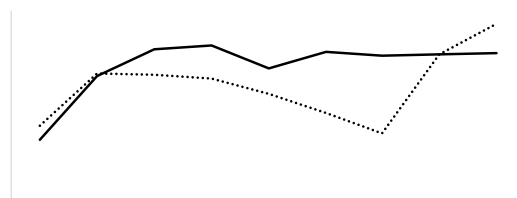
近年，子どもたちの遊びの変化，三つの「間」の減少により，仲間づくりの機会の減少が問題となっている。学校体育においては，集团的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することが期待されている（文部科学省，2008）。中でも2008年改訂の学習指導要領より中学校第一学年及び第二学年で必修化されたダンスは，「みんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わう」，「踊りを通じた交流」といった文言が記載されていることから仲間づくりへの貢献が期待できる。そこで本研究は，中学校体育におけるダンスの授業が生徒の仲間づくりに及ぼす影響について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

京都市立H中学校3年生の2クラス（2組23名，4組22名）を対象に，ダンスの授業（全9回）をビデオカメラ，Bluetoothマイクを使用して撮影した。単元前後に「診断的授業評価，総括的授業評価」，毎時間終了時に「生徒の仲間づくりを評価する形成的授業評価」を実施した。「診断的授業評価，総括的授業評価」についてはSPSS ver. 19で対応のあるt検定を行った。「生徒の仲間づくりを評価する形成的授業評価」については，集团的相互作用，集团的活動への意欲，集团的人間関係，集团的思考，集团的達成の5つの因子別に全9時間の経過をまとめ，その中で最も高い得点と最も低い得点に注目し要因の検討を行った。

3. 結果と考察

仲間づくりを評価する形成的授業評価では，「2.50」を基準値とした（高橋ら，1994）。2組の7次元，集团的達成の項目で「2.50」を下回る得点を示したが，他のすべての項目で，2組，4組共に「2.50」を上回る高い得点を示した。



1 形成的授業評価（総合評価）

診断的・総括的授業評価では，2組の単元前後で「明るい雰囲気」，「積極的発言」の項目で有意な差が見られた。

4. まとめ

本研究では，ダンスの授業が生徒の仲間づくりに効果的であったといえる。また，2組のみではあるが診断的・総括的授業評価の結果から，授業を明るい雰囲気と捉えるようになり，グループ活動では積極的に発言できるようになったといえる。

引用・参考文献

文部科学省（2008）中学校学習指導要領解説保健体育編。東山書房出版社：京都。
高橋健夫・長谷川悦示・刈谷三郎（1994）体育授業の「形成的授業評価法」作成の試み。体育学研究 39（1）：29-37。